

平成28年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

附属高等学校天王寺校舎

## 1 附属高等学校天王寺校舎の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

### (2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

### (3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員504人(1学級42人)

### (4) 幼児・児童・生徒数

489人 (男子248人・女子241人)

### (5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 指導教諭 0人, 教諭 32人(うち, 臨時的雇用8人, 育児休業2人, 再雇用職員3人), 非常勤講師 12人

事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人), 臨時用務員(用務員) 2人, 臨時用務員(調理師) 0人

## 2 附属高等学校天王寺校舎の特徴

本校は、開校以来附属天王寺中学校とともに6年一貫教育の研究、実践を続けてきた。また、平成27年度SSH第2期の指定を受け、現在SSHの目的にそった教育研究を継続している。

生徒の自主性を重んじ、多様な経験と活発な議論を通じて、時代を問わず通用する生きる力と、自律的に責任を持って行動する力を育てることを目指している。

## 3 附属高等学校天王寺校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

## 4 附属高等学校天王寺校舎の学校教育目標

- 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。
- 強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。
- 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

## 5 附属高等学校天王寺校舎の学校教育計画

1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。特に、自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。
2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。
3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

6 附属高等学校天王寺校舎の平成28年度 重点目標(評価項目)、具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心を持ち、透徹した判断力を養う。</li> <li>●強固な意志を持ち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。</li> <li>●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。</li> <li>●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。</li> </ul>
学校教育計画	1. 生徒の学力と、「生きる力」を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。特に、自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
・生徒の学力向上と、自律的な学習・生活習慣の確立を進める。 ・互いの個性と能力を尊重する態度を育成し、個々の力量を十分に発揮させる。	生徒が主体的・能動的に活動できる課題設定を行い、基礎を固めたうえで表現、相互評価できる学習集団を作る。(国語)	主体的・能動的な活動のための課題設定を行えた。表現、発信の場も設けることもできた。	基礎の定着と、主体的・能動的な課題設定とのバランスの取れた取り組みを進める必要がある。	A	特になし	A	特になし
	思考の言語化と共有を通じて他者の価値観に触れる機会を増やす。(社会)	探究活動、レポート、発表等の活動を発達段階に応じて取り入れた。	分野によっては発表の機会が十分でなかった。他者の意見と自分の意見を重ねる活動が不十分だった。	B	特になし	A	特になし
	自立的な学習をすすめるための工夫を教員間で共有する。(理科)	「学びの自立を目指す評価の工夫と改善」というテーマで、小中高研究部会等の場で議論した。	日常の教科会での議論が十分できておらず、教科会の活用方法の工夫が求められる。	B	特になし	A	特になし
	ドロップボックスの活用をすすめるとともに、集団活動の中で相互に認め合う環境を作る。(芸術)	ドロップボックスの活用は全学年で行った。自発的な活動につながった。協働的な活動を積極的に取り入れた。	専任教員と非常勤教員との指導方法や内容を統一する。	A	ドロップボックス使用について意図の説明が不十分ではないか。	A	ドロップボックスのインストールに際して、目的や使用について丁寧に説明する。
	ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れ、生徒の自立的協働を促す。(英語)	ほぼ毎回の授業で協働的活動を取り入れることができた。家庭学習も習慣化で来た。	さらにクラス全体が互いに学びあう仕組みや環境を工夫する。	A	特になし	A	特になし

	自治会行事の実行を筋道立てて行わせる中で、自主自律に根ざした集団作りを意識させる。(生指)	生徒の現状に合わせた指導はできた。	議論をする時間を確保すること、生徒の議論の場面におけるサポート体制の確立が必要である。	B	形式的な議論で時間がとられすぎとの意見がある。	A	議論の内容を充実させるための働きかけをさらに工夫する。
	実力テスト、外部模試などを活用して進路への目的意識を育てる。(進路)	予定通り実施できた。	模試のメリットをさらに周知し、3年生の活用状況を向上させる。	B	特になし	A	特になし

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。</li> <li>●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。</li> <li>●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。</li> <li>●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。</li> </ul>
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
・将来の目標を見据えた進路意識を高めさせ、その実現に向けた支援を行う。 ・生徒と教員が協働して健康と安全を意識した教育環境の整備を図る。	老朽化した体育施設の補修や器具の安全チェック等を行う。物品管理や整理に留意する。(保健体育)	数箇所の体育器具庫を中心に物品管理、整理整頓を徹底した。	多くの施設に見られる経年によるいたみについて、安全点検を継続的に行う。	B	特になし	B	特になし
	調理室や被服質など、衛生・安全に配慮した環境整備を進める。(家庭)	家庭科調理室の大改修を行い、安全、衛生的な授業・実習環境を整えた。中学での40人一斉の調理実習が可能となった。	改修した施設を活用して、授業や行事等の活動の充実を図る。	A	特になし	A	特になし
	必要な進路情報の伝達を徹底し、生徒の適性に応じた進路指導を行う。(進路指導)	HR、保護者集会、進路講演会等を活用し、進路情報の普及を進めることができた。	担任と進路部とで生徒の進路希望情報をより共有できる仕組みを作る。私学受験数が増えている中で、適切な出願についての情報を普及する。	A	特になし	A	特になし
	PC等の充実をすすめ、ICT機器を用いた活動環境の整備を図る。(庶務)	中学技術室のPCを更新した。不要な機材や周辺機器の廃棄を進めた。	PCやiPadの台数が増えたため、管理が難しくなっている。教員のメンテナンス技術を向上させる必要がある。	B	特になし	A	特になし

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正義を愛し、真理を追求する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。</li> <li>●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。</li> <li>●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。</li> <li>●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。</li> </ul>
学校教育計画	3. 学校独自の取組を通してカリキュラム全体の充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導の各領域における成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<p>・附属校として求められる研究テーマを設定し、その取組と成果を発信する。</p> <p>・生徒の対外的な成果発表を支援する。</p>	「学びの自立を目指す評価の工夫と改善」を学校研究テーマとして設定し、教育研究会や研究集録を通じて情報発信する。 (研究)	左記テーマで外部講師を招いたアクティブラーニングに関する研修会や協議を行い、その成果を中高教育研究会で発表した。442名の参加者があった。	研究テーマが教育研究会のためのものにとどまり、日常の研究や実践に深くつながるころまでは進んでいない。公開授業や授業参観も充実させる必要がある。	A	特になし	A	特になし
	天王寺中高の学習指導・生徒指導を6年間見通したものとして内外に提示する。 (教務)	中高それぞれの学校案内の内容はより現状を反映したものとなっているが、中高全体の案内は作成できなかった。	各教科や校務分掌で中高全体の指導内容を再確認し、学校案内の改定に向けた作業を行う。	C	中高一貫の工夫は現状でも十分にされている。	B	特になし
	アクティブラーニングの実践に向けて教科全体で取り組む。 (国語)	国語科としてどのようにアクティブラーニングが実践できるか検討・実践し、教育研究会で発表した。また大学一附属研究交流会でも発表した。	国語科としての取り組みの可能性を検討し、さらに取り組む。	A	特になし	A	特になし
	大教大数学会での研究、実践を進める。数学オリンピックやSSH発表会への参加を支援する。 (数学)	大教大数学会研究発表会に参加発表した。教育研究会でも発表した。数学オリンピック、マスカンパへの参加、サイエンスデーでの発表を支援した。	アクティブラーニングへの取り組みが不十分。課題研究の指導法についてもさらに研究が必要。	B	特になし	A	特になし
	学校設定テーマでの研究発表を行う。自由研究・SSH課題研究での指導を充実させる。研究発表への支援を行う。 (理科)	教育研究会で研究授業・発表を行った。事前の授業公開をつうじて、教員間の相互理解と協議を深めることができた。課題研究については理科として積極的にかかわれた。	様々な行事での生徒の活動をサポートすることができた。しかし日常的な教科指導について十分に協議できていない。	A	特になし	A	特になし

	<p>年2回の発表会や作品発表の場を通じて、生徒が成果を認め合うことをすすめる。また、研究成果を定期的に発信する。 (芸術)</p>	<p>アクティブラーニングをテーマとした研究発表を行い、大きな反響を得た。音楽雑誌に実践報告した。</p>	<p>中高の連携を強め、生徒の自己実現に向けた取組みを進める。</p>	A	特になし	A	特になし
	<p>自治会活動の取組みや成果について外部の研究発表会で発信する。 (生指)</p>	<p>附高祭を題材にして自治会活動の成果について発表した。</p>	<p>研究発表での討議を参考にしながら自治会活動のあり方を再検討する。</p>	B	特になし	A	特になし



